

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000513		
法人名	特定非営利活動法人 あおぞらの会		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北15245-2		
自己評価作成日	平成30年1月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouyuu_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4572000513-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouyuu_detail_2017_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=4572000513-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成30年2月8日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、平成29年3月に新しい場所(建物)へと引っ越し致しました。日当たりも良く、明るい陽の入るホームとなり、敷地内には畑もあり四季折々を身近に感じる事ができます。畑では1年を通していろいろな野菜を植え収穫を楽しんでいます。入居者様から昔の知恵を学び、入居者様・職員が共に共同作業を行い、楽しい時間を共有する事で、生き生きとした日々を送る事ができるような環境作りに努めています。入居者様一人ひとりの個性を職員が理解し、職員間での情報共有・意見交換が出来る雰囲気作りを大切にしています。また、地域との交流として当ホームで認知症サポーター養成講座を開催したり、月に1度の地域のサロンに参加させていただくなどして、地域との交流を深めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広い敷地に栗、柿、みかんなどの樹木をはじめ畑があり、利用者と職員はそれを収穫、加工し食するなど五感で四季を楽しみながら生活している。また、災害にも配慮された場所に建設されており、将来は地域の避難施設になる予定である。地域の中のホームとの位置づけを意識し、地域のサロンや、認知症サポーター養成講座の会場としてホームを開放するなど、日常的に来訪者がある。また、「えがおいっぱい大家族」をホームの理念としており、全職員が理念の下日常のケアに努め、笑いの絶えないホームにするため、職員研修等の機会も作るなど、職員の資質向上にも努めている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見やすい場所に掲げ、職員全員が理解し、実践している事を確認しながら日々を過ごしています。注意すべき・反省すべき点などは、職員会議にて話し合うようにしている。	理念をパンフレットに掲載するとともに、玄関等に掲示し来訪者や関係者にもわかりやすいように配慮されている。また、職員も日々、理念を意識したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンへの参加や、催し物の際は、地域の人達に声を掛け参加を募るなど、定期的な交流などを行っています。	地区の行事に参加するなど、日頃から交流を図っている。地域のサロンや認知症サポーター養成講座の会場としてホームを開放するなど、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に声を掛け、当ホームで認知症サポーター養成講座を開き、認知症の人への理解や支援方法など、地域の方々に学んでいただくと同時に、職員にとっても改めて意識づけとして良い活動になっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を行い、取り組んでいる事に対する意見等をいただき、次回への取り組みとして生かされている。	利用者や家族、関係機関が参加してホームの現状、今後の予定などの報告がなされて、出された意見を今後の取組に生かしている。	今後もホーム運営に生かされる会議となるよう現状報告の内容などの議題設定や、会議報告書の充実に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などに参加をいただき、意見を伺うなどし、サービスの向上に努めています。また、相談事がある時などは、役場に行き意見を伺っています。	運営推進会議をはじめ、困りごとや運営についてなど、いつでも気兼ねなく相談、協力を求められる良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに足を運び、改めて職員会議などで、職員全員で情報共有を行っています。身体拘束のないケアを実践しております。	身体拘束の弊害について研修やミーティングの場で学ぶ機会があり、全職員周知している。利用者の生活状況を把握することで、見守りの強化や共に行動し、身体拘束をしない自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加するなどして、決してあってはならない事への理解・意識を持ち、常日頃のケアにおいて十分な注意を払っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員が、職場に持ち帰り、勉強会として、みんなで学ぶ機会を作っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約などに関しては、利用者様を交えご家族様と十分に時間をかけ口頭・書面での説明を行い、理解・納得を得られるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られる際や、お電話等で要望や意見等がないかは声掛けさせていただいています。要望・意見等が出た際には、職員で情報共有し支援に反映していきます。	日々の会話を通して、利用者が意見や要望を言いやすい環境を作っている。また、家族の面会も多いことから、その都度声掛けを行い話を聞いて運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は傾聴し、改善していく点等は代表者・管理者・職員共に改善していき働きやすい環境を作っていけるよう努めています。	月1回の全体ミーティングで、職員からの意見、提案を聞いて、出された様々な意見を精査し、できるものから反映させている。管理者は、日々の勤務の中での相談等も、言いやすいように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境でやりがいを持って働けるよう、必要に応じた対策をとり、職場の環境・条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	いろんな地域で開催されている研修や勉強会に参加してもらっています。また、学んだ事を他の職員にも伝えて、日々のケアに活かしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する事で新たな学びを得られるため、そのような交流がある際はできるだけ参加し、日常のサービス向上につなげていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホーム内の雰囲気の状態を見て頂き家族の意見や要望を聴き取りよりよいサービス関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を受け止めて様々な相談に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報を見極め適したサービスが受けられる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い支え合う生活を築いて本人の思いや希望をくみ取り利用者に寄り添いながら関係を大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の生活や健康状態を報告し、把握して頂くなど家族と共に支えて支援しているよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会には来やすい環境作りに努めたり、家族の希望や本人の支援に応じその度対応している。	「いつでもどうぞ」という来訪しやすい環境を作ることで、利用者の家族や友人、知人の来訪が日常的にある。家族や知人から情報を得るなど、なじみの関係の把握にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が良い関係を持てるように利用者に対する言葉に配慮し一緒に過ごしながら関係作りができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて本人、ご家族の経過フォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情、何気ない会話の中からヒントを得て本人の立場に立って考える様に努力している。	利用者同士の会話や表情から意向をくみ取りケアに反映させている。困難な場合は、家族や関係者と話し合い、本人本位で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの物等ご家族に伺い、暮らし方などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や介護支援経過を利用し、一人ひとりの一日の過ごし方の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意見や意向を聞きカンファレンスにも参加してもらい現状報告を行い共同で介護計画を作成している。	本人、家族の意向や状況を把握した上で、日々のケース記録を参考に職員の意見を聞きながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議で、一人ひとりのモニタリングを行い日々の様子を個別記録に記入し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて出来る限り柔軟な支援やサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得ながら月に1回のボランティアや保育園児の訪問、サロン参加など交流支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関を利用して、定期的な受診には、協力医療機関を利用し、急変時の対応など適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医がかかりつけ医になっていることから連携が図られ、特に緊急時対応などは、適切な医療が受けられる体制を整えている。また、受診後は、速やかに家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員へ相談し身体状況を常に共有し指示を受けながら適切な受診や看護が受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は適切な治療が出来るよう情報提供し早期に退院できる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関を交えて、本人・家族の思いを尊重し尊厳し十分な話し合いを行っている。穏やかに過ごせる環境づくりにも対応しながら全員で共有できるように努めている。	入居時に重要事項説明書にて説明を行い、本人や家族の意向に沿った支援に努めるため、協力医を含めて十分な話し合いを行っている。今までに6件の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急法やAEDなどの勉強会を定期的に行い対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や研修を定期的に行い対応できるようにしている。	定期的に避難訓練を行い災害時に備えている。今回は、夜間の災害発生時の想定で、緊急連絡システムを使った訓練も計画している。今後は、災害時の避難場所になる予定もある。	地域の協力を得ながら、定期的に避難訓練を行うことで、利用者が安全に避難できる方法を全職員で共有する事や食料品等の備蓄の検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを一番大切にして声掛けなどを配慮している。職員会議などでも学ぶ機会がある。	土地柄が改まった声掛けは好まれないため、親しみやすい言葉かけを心掛けているが、なれ合いにならないよう、特に、排せつや入浴時の言葉かけは声のトーンや言葉遣いに注意を払い対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情やしぐさなどから本人の思いや希望を見出し実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体に一日を過ごして頂き、本人のリズムを優先に念頭におき暮らしにける様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みや四季に応じた衣類が選べる様に職員と一緒にしておしゃれができています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に対しての楽しみが維持される様に畑から旬の野菜を収穫したり食料を買いに行ったり準備など職員と利用者で楽しむ事ができている。	月に一度、利用者の希望のメニューを作る「料理の日」を取り入れるなど、楽しい食事支援に努めている。利用者もテーブル拭きなどできる事で食に関わっている。職員も同じテーブルで同じものを食べ、その中で声掛けやケアをさりげなく行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態で提供しており、なかなか食事が摂取できない時には家族などと相談して栄養補助食品を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には、口腔ケアをして清潔保持に努めている。義歯は、定期的に消毒できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	誘導に対する声掛けや利用者の細かな動きを観察すると共にある程度の時間帯を設けて自己排泄への習慣づけに心掛けて取り組んでいる。	排せつチェック表を活用し、さりげない声掛けを行い排せつ支援をしている。設置された手すりを活用するなど、自立支援につながるよう声掛けも工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細めな水分補給や牛乳を取り入れて、食事には食物繊維を取り入れ工夫している。または、体操など実施し利用者の方と話し合い下剤などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調管理を行い、良い状態で入浴して頂いている。入浴拒否時は個々の意思を尊重して支援し清拭等にて清潔保持にも心掛けている。	ゆず湯や、入浴剤などで季節感を出したり入浴を楽しんでもらう工夫をしている。できるだけ利用者の意志を尊重して無理強いはいしないよう心掛け、清拭を行うなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が希望される際は自由に休息していただき、ソファで皆さんでゆっくり過ごされている。夜間安心して環境で休める様に本人の馴染みのある物などを取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを確認すると共に症状に応じては医師より指示を受けている。薬などに変更がある場合には、確実に職員へ申し送りして情報共有できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた家事や洗濯等の役割を持って頂き生活歴に応じた役割を取り入れ、継続できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援や散歩などで季節感を味わって頂ける様に働き掛けている。地域の行事やサロンへの参加も積極的に参加できている。家族の行事ごとにも積極的に協力し合っている。	地域との関係構築に努めており、利用者が区の回覧を届けに近隣に出向き会話を楽しんだり、地域の行事への参加も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問パン販売にて、自分の財布より支払い、好みのパンを購入できるよう支援しております。また、職員と一緒に買物に行ったり、外出先での買い物等は、ご家族様と相談するなどして支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやり取りや手紙のやりとりなど、ご希望に応じて行っています。特にご家族が遠方にいらっしゃる方は定期的に連絡のやり取りを行っています。また、毎年年賀状をご家族様宛にご本人様に書いていただくなどの支援も行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間等には季節を感じられるよう、本人様と作った季節の作品などを飾り、居心地良い空間作りの工夫に努めています。また、トイレや浴室等では細目に掃除するなどして、不快を感じないよう、いつでも清潔を保持しております。	さんさんと陽がそそぐゆとりある共有空間は、ソファ等をどのように配置したら話が弾むかなど、細かい部分にも配慮されている。外出など利用者の活動写真は、直近のものが掲示されており、来訪時の家族にとっても楽しみにつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士で過ごせる空間、ゆったりリラックスして過ごせる空間、利用者様の様子観察を行いながら、その時にあった空間作りを工夫しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅から持ってきた思い出の物や写真など、馴染みの物を居室に置く(飾る)などして、本人様にとって落ち着き過ぎしやすい居室空間を作るよう工夫しております。	利用者がそれぞれに、自宅から持ち込んだ使い慣れたなじみのものを置き、居心地よく過ごせるよう工夫している。希望者は、テレビを持ち込み、自分の生活リズムの中で視聴し、自宅と同じようにくつろげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること・わかること」は継続して、本人様が維持していけるよう、声掛けを行いながら自立した生活への支援を心掛けております。		